

a $\eta = \frac{\text{ヒストグラムの原点における頻度}}{\text{ヒストグラムの最大頻度}}$

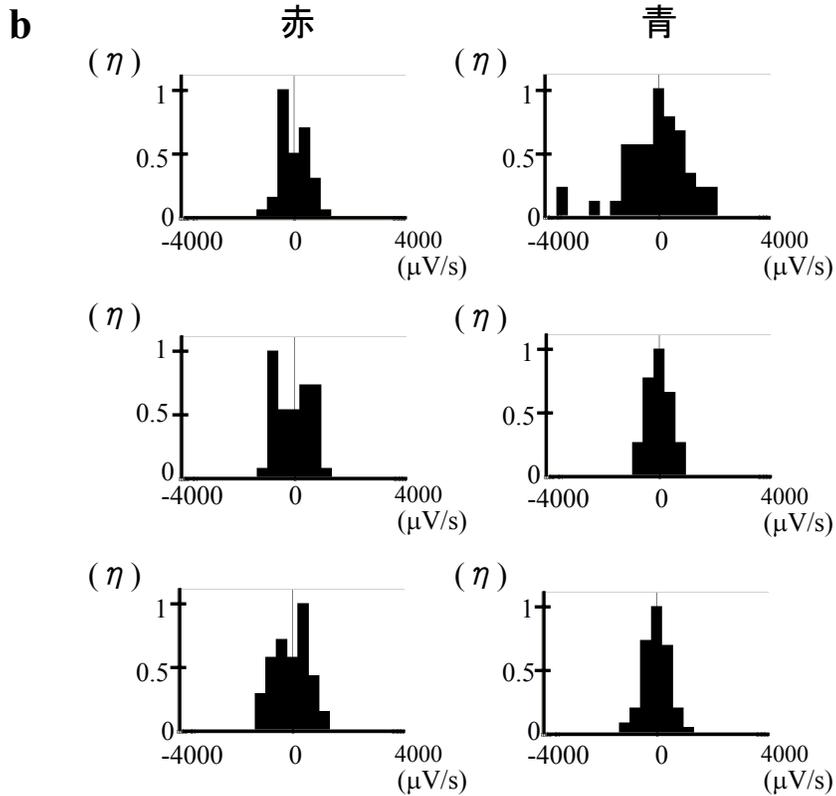


図26 dV/dt 軸ヒストグラムの η と色彩嗜好との相関

a. η を次のように定義した。 $\eta = \text{ヒストグラムの原点における頻度} / \text{ヒストグラムの最大頻度}$ 。 b. 全面一色になってから3秒間の脳波を位相空間軌跡解析して、PSTと dV/dt 軸が交わる点の数についてヒストグラムを作成した。好きな色ではヒストグラムの η が大きくなる傾向が見られ、嫌いな色では η が小さくなる傾向が見られた。典型的な例として女性被験者F7の電極 T_5 （左側頭後部）における嫌いな色：赤と好きな色：青の例を示す。

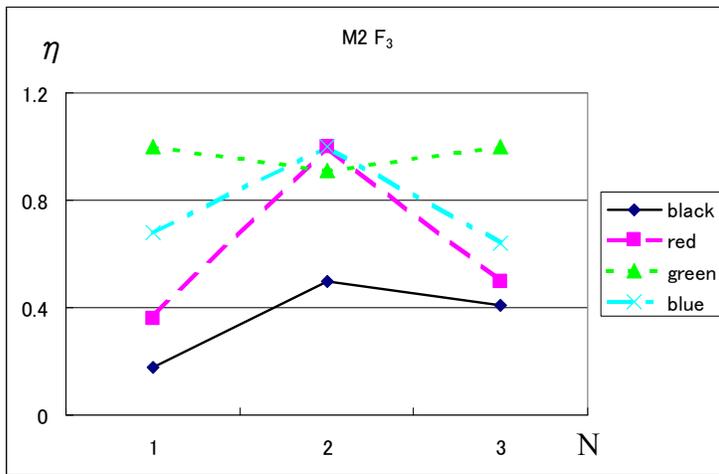
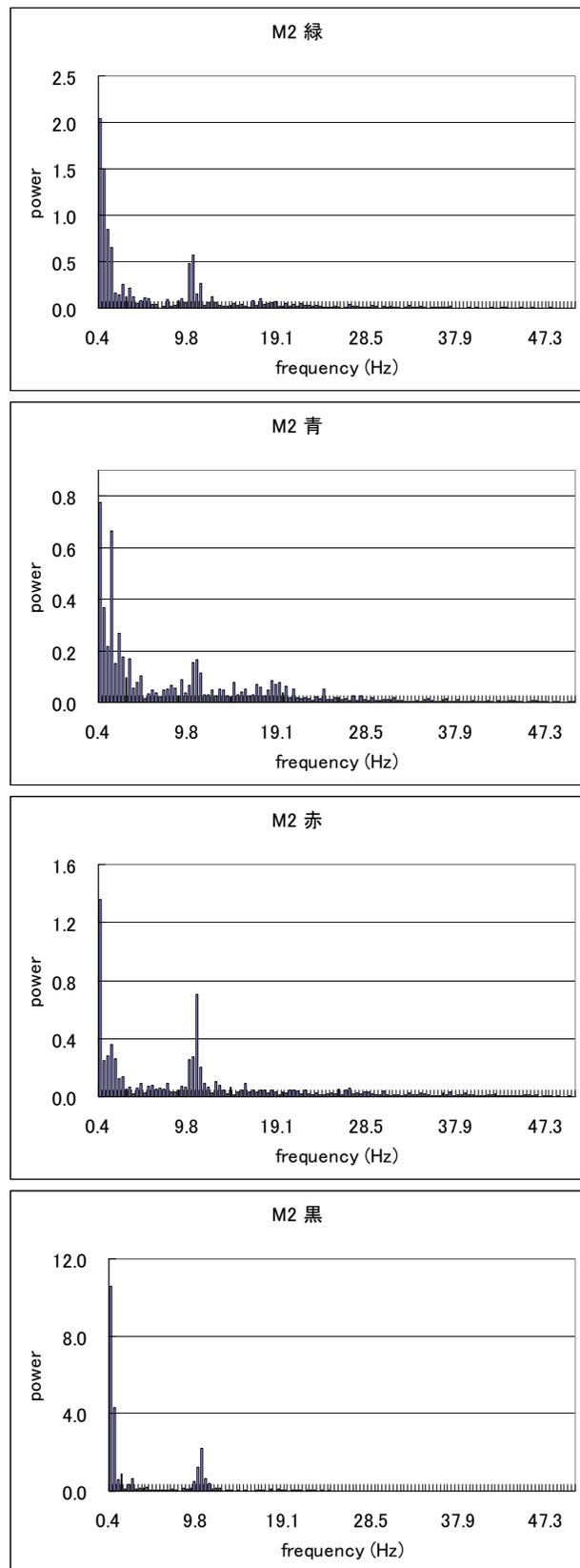
a

図27 M2の色彩嗜好とdV/dt軸ヒストグラムの η およびFFTパワースペクトル

a. 被験者M2の電極F₃における全面一色になってから3秒間の脳波を位相空間軌跡解析し、PSTがdV/dt軸と交わる点の数についてヒストグラムを作成し、 η を求めた。各色につき3回連続して呈示したときの値を示している。嫌いな色の黒は η が最も小さくなり、好きな色の緑は η が大きくなる傾向を示した。b. aで用いたのと同じデータに対してFFTを行い、各色毎に3回の平均パワースペクトルを求めた。上から順に緑、青、赤、黒である。パワースペクトルでは緑と黒に差が見られない。

b

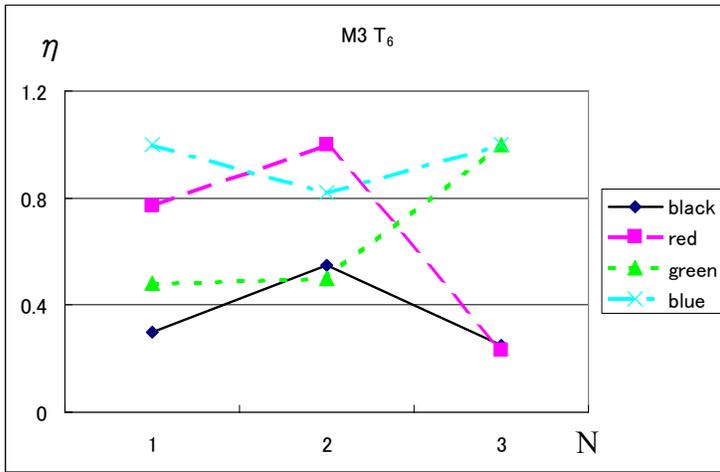
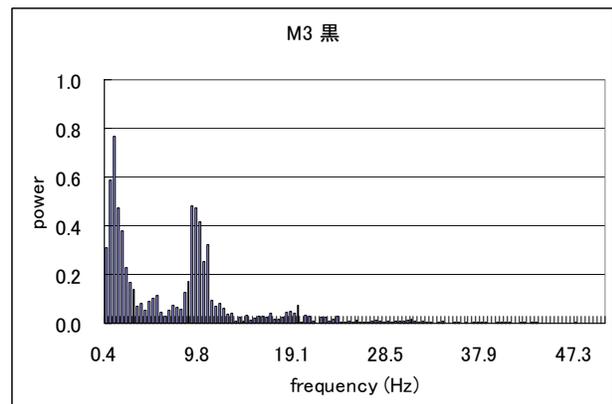
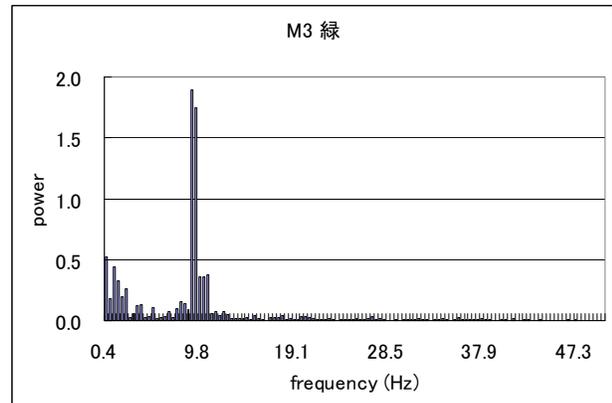
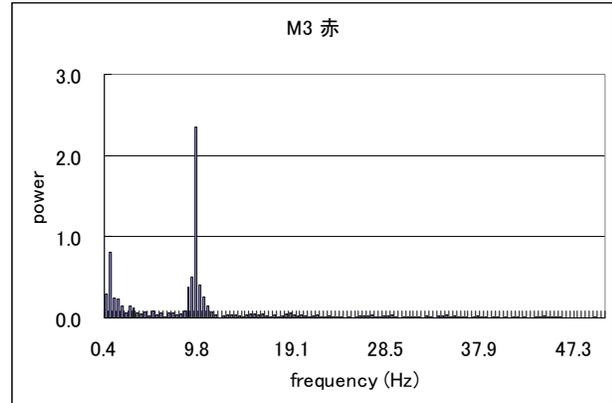
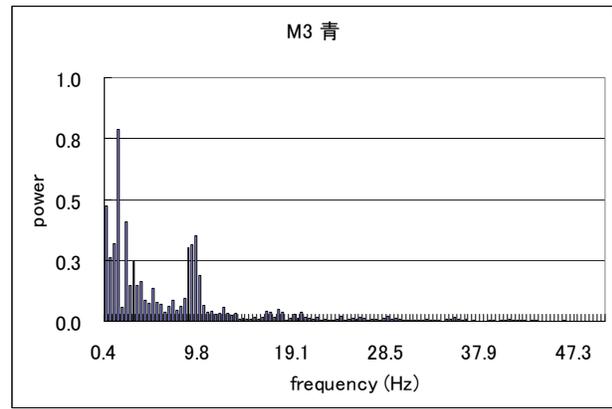
a**b**

図28 M3の色彩嗜好とdV/dt軸ヒストグラムの η およびFFTパワースペクトル

a. 被験者M3の電極T₆における全面一色になってから3秒間の脳波を位相空間軌跡解析して、PSTがdV/dt軸と交わる点の数についてヒストグラムを作成し、 η を求めた。各色につき3回連続して呈示したときの値を示している。嫌いな色の黒は η が小さくなる傾向を示し、好きな色の青は η が大きくなる傾向を示した。b. aで用いたのと同じデータに対してFFTを行い、各色毎に3回の平均パワースペクトルを求めた。上から順に青、赤、緑、黒である。パワースペクトルでは青と黒に本質的な差が見られない。

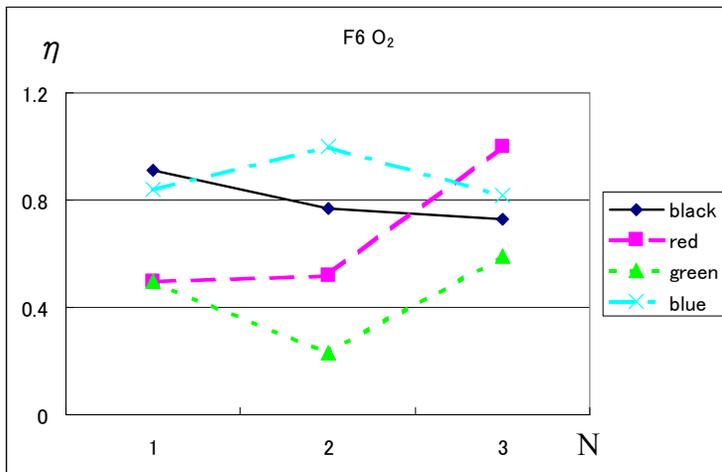
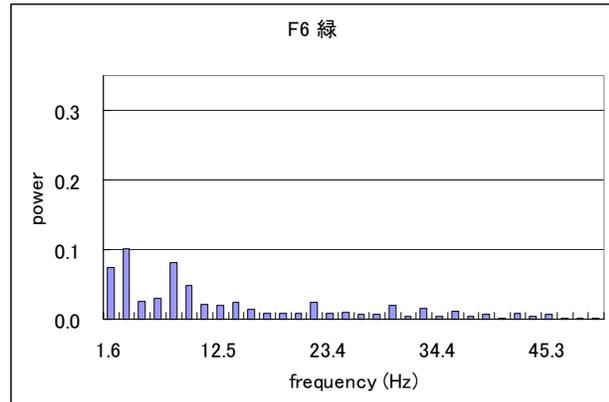
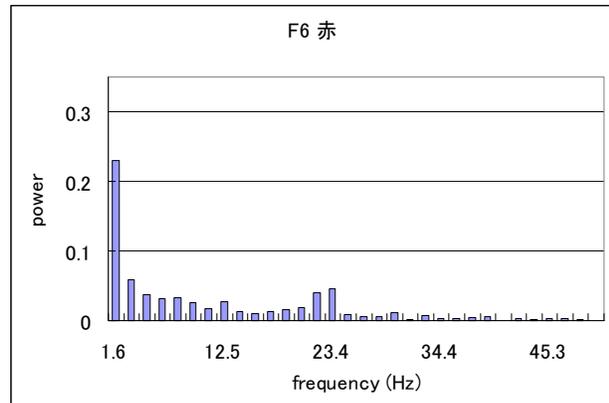
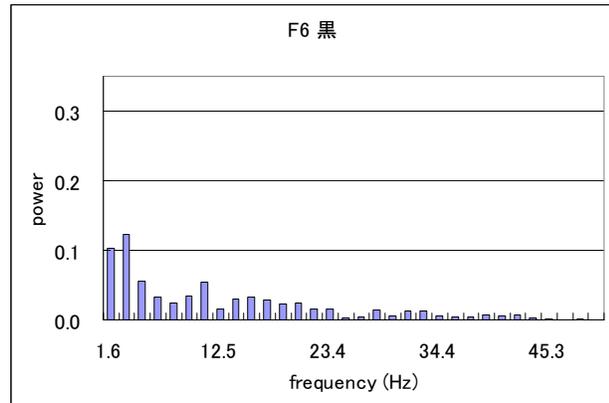
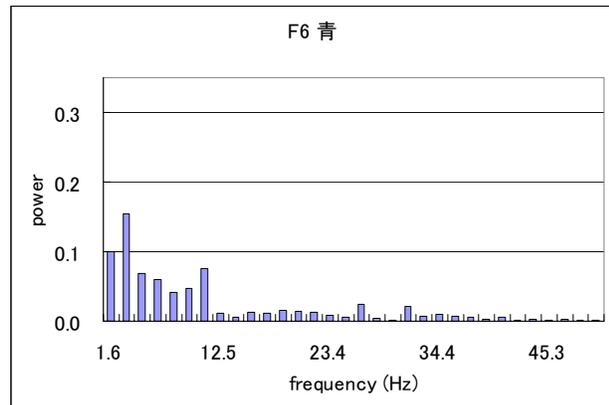
a**b**

図29 F6の色彩嗜好とdV/dt軸ヒストグラムの η およびFFTパワースペクトル

a. 被験者F6の電極O₂における全面一色になってから3秒間の脳波を位相空間軌跡解析して、PSTがdV/dt軸と交わる点の数についてヒストグラムを作成し、 η を求めた。各色につき3回連続して呈示したときの値を示している。嫌いな色の緑は η が最も小さくなり、好きな色の青は η が大きくなる傾向を示した。b. aで用いたのと同じデータから瞬きを除いた短時間（1.1秒間）を抽出してFFTを行い、各色毎に3回の平均パワースペクトルを求めた。上から順に青、黒、赤、緑である。パワースペクトルでは緑と青に差が見られない。

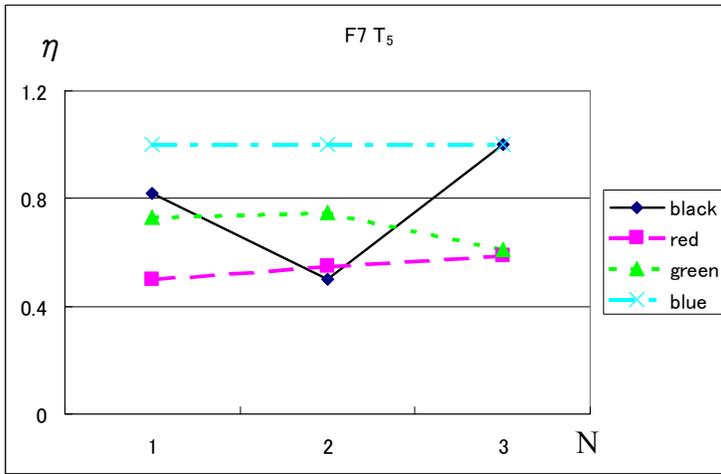
a

図30 F7の色彩嗜好とdV/dt軸ヒストグラムの η およびFFTパワースペクトル

a. 被験者F7の電極 T_5 における全面一色になってから3秒間の脳波を位相空間軌跡解析して、PSTがdV/dt軸と交わる点の数についてヒストグラムを作成し、 η を求めた。各色につき3回連続して呈示したときの値を示している。嫌いな色の赤は η が最も小さく、好きな色の青では η が最も大きい。b. aで用いたのと同じデータに対してFFTを行い、各色毎に3回の平均パワースペクトルを求めた。上から順に青、黒、緑、赤である。パワースペクトルでも青と赤に差が見られた。

b